

問 題 「JAくらしの活動」に関する説明のうち、〔a〕から〔d〕に当てはまる最も適切な語句の組み合わせはどれか。解答群の①～④のなかから一つ選びなさい。

「JAくらしの活動」として、「〔a〕」を基軸とした地域活性化や「〔b〕」を軸とした地域セーフティネット機能の発揮に取り組むとともに、地域コミュニティ活性化の「〔c〕」の設定、地域における〔d〕への取り組みを推進します。

- ① a. 食と農 b. 安全・安心 c. 政策 d. 環境問題
② a. 地域農業の振興 b. 助け合い c. 政策 d. 反産運動
③ a. 食と農 b. 助け合い c. 場 d. 環境問題
④ a. 地域農業の振興 b. 安全・安心 c. 場 d. 反産運動

(24年度・全国統一初級・JA基礎)

1 **解 答** ③ (難易度：普通)

2 **解 説** 「JAくらしの活動」とは、
3 安心して暮らせる地域づくりと豊かな
4 暮らしを実現するための組合員および
5 その家族等が実践する自主的な活動を
6 支援する取り組みである。

7 JA役職員は、「JAくらしの活動」
8 の展開を通して、JAと組合員・地域
9 住民はもとより、組合員と地域住民の
10 つながりをつくる役割を果たしていかな
11 なければならない。

12 JAは、組合員はもとより、地域に
13 暮らす人びとの協同の活動を支援し、
14 高齢者生活支援、食農教育、環境保全、
15 子育て支援など、「くらし」をめぐるさ
16 まざまなニーズや願いを実現すること
17 が、JAが地域に存在しうる大きな意
18 義を生み出し、ひいてはJA事業・組
19 織基盤の強化につながると理解しなけ
20 ればならない。

21 「JAくらしの活動」は2009(平成

22 21) 年の第 25 回 J A 全国大会で提起
23 されたが、その運動の内容は必ずしも
24 新しいものではない。J A 生活活動の
25 延長線上に位置づくものである。

26 J A 生活活動は、1970 (昭和 45)
27 年の「生活基本構想」によって体系的
28 に整理され、その後、1985 (昭和 60)
29 年の「生活活動基本方針」によって課
30 題の整理と見直しが行われた。

31 生活基本構想とは、「J A が組合員の
32 ために、生活上の問題で、どのような
33 役割を果たすべきか、また果たすこと
34 ができるかについて、方向付けを行っ
35 たもの」であり、「J A が生活活動に取
36 り組み、組合員の暮らしの領域に深く
37 関わることで、組合員の幸せづくりと
38 農協事業の発展につながる」ことをめ
39 ざしたものである。

40 しかし、生活基本構想で提起された
41 課題が広範であったためか、組合員の
42 協同活動を基礎とする J A づくりとい
43 う面で体制整備が遅れてきた。

44 こうした状況を踏まえて、第 25 回
45 J A 全国大会において「J A 暮らしの
46 活動」の運動方針が提案・承認され、
47 “新たな協同” というかたちの組合員
48 の協同活動を基礎とする J A づくりに
49 取り組むことになったのである。

50 J A による「生活活動」と「暮らし
51 の活動」の違いは、「生活活動」では主
52 として組合員の生活活動に重きが置か
53 れてきたが、「暮らしの活動」では地域
54 の再生をはかることの重要性に着目し

55 て、組合員の生活活動のみならず、地
56 域コミュニティの開発活動にも注力す
57 ることが提案されたことである。

58 もちろん、そうはいつでも、生活基
59 本構想で提案された活動や事業に鋭意
60 取り組んできたJAや県域からすれば、
61 以前から地域コミュニティの開発活動
62 にも注力してきたわけであり、「くらし
63 の活動」によって何か画期的な提案が
64 なされたというわけではない。

65 「くらしの活動」が提案された本意
66 は、ざっくりとした表現が許されるな
67 らば、「生活活動」の取り組みが不十分
68 なJAや県域において、食農教育や高
69 齢者生活支援など、最低限これだけは
70 やってほしいという基準を提示するこ
71 とにあったと理解すべきである。

72 ここで幸せづくりとは、福祉の向上
73 を意味するものであり、福祉とは、障
74 がい者や高齢者など社会的弱者へのケ
75 アという意味の福祉ではなく、個人の
76 自由の実現としての「よき生活」を意
77 味している。ノーベル経済学賞受賞者
78 のアマルティア・センの言葉を使えば、
79 **well-being**（直訳では「よい状態」と
80 表現されるものである。

81 センの言う福祉とは、人が財・サー
82 ビスを使って「何ができるか（行動）」
83 「何になれるか（状態）」について、ど
84 のような行動、どのような状態を選ぶ
85 か、またどのようなウエイトを与える
86 かは、各人の自由であるが、各人が望
87 むような行動と状態の組み合わせを選

88 択する能力あるいは実現可能性を表し
89 ている。

90 例えば、イエやムラに閉じ込められ
91 た農村女性は、「自由に外に出たい」「自
92 分のサイフを持ちたい」という願いは
93 持っていても、それを実現する手立て
94 が奪われている。そういう制限された
95 状態からの開放も、福祉の向上＝幸せ
96 づくりの一環なのである。(石田正昭)

97

98

99

100

101 122 行×17 字

102 $(12+1) \times 2 = 26$ 行

103 $122 \text{ 行} - 26 \text{ 行} = 96 \text{ 行}$

104